



神奈川県自閉症協会では、神奈川県発達障害支援センター（かながわA）や相模原市発達障害支援センターからアドバイザーをお迎えして、自閉症スペクトラムの方々を対象に、懇談会を開催しています。

今年度最初の懇談会には、20～40代の14名が参加されました。初参加の方は3名。女性の参加者は6名でした。

第1部は共通テーマによる話し合いです。今回はトラブル（キャッチセールス）回避のためのDVDを視聴して、意見交換を行いました。

- ・「クーリングオフ」を知っている。
- ・あまり金銭を持ち歩かない。勧誘されても行かない。
- ・人前では暴力をふるわないはずだから、路上で声をかけられても早歩きで無視する。
- ・違う住所を記載する。

等の自衛策が出される反面、

- ・やり方が巧妙化している。隙につけ込むのは本能。自分たちは騙されやすいと思う。
- ・見たり書いたりしていると変だと気が付くけれど、聞いただけだと分かりにくい。
- ・自分は引っかけられないと思っている所が危ない。

など不安な声も聞かれました。相談窓口や対応についての資料も配布されました。

休憩後の第2部は、皆様から提起された話題についてです。今回は5項目ありました。「服の管理」について

コーディネートやたたみ方が不得手な方へ、電車内の他人の服装を参考にする・滑りにくいハンガーを使うなどのアイディアが出されました。

「出生前診断」について

“手がかかる人を受け入れられないのは残念。社会の理解がほしい。国によっても違う。”

など現状に対する意見が出たあと、

“人それぞれの事情があるので、一概には言えない。育てられるかどうか、親次第では。”

と、生まれてくる子ども自身に思いを馳せた意見が続きました。その後も、

“事情はあれど、選別される感じがする。健常な人でも事故等で障害者になる場合もある。最初から排除するのには抵抗がある”

“自分の産みたい欲求よりも子どものことを考えた方がよい”

など、複雑な胸中が語られました。

皆さんの真摯なご意見を、身が引き締まる思いで伺いました。圧巻でした。

近況報告では、職場での視覚支援など、配慮や理解が広がり始めたと感じられる場面が増えました。誰にとっても生きやすい社会になるよう願ってやみません。次回も楽しみです。